

長崎市提案型協働事業 平成 23 年度実施事業 評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	体験楽習クラブさ〜くる	担当課名	障害福祉課
事業名	ワカモノ“SMILE”サポートセンター事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	B
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	B
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	C
総括		B	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている B…優れている C…どちらともいえない
D…どちらかといえば不十分である E…不十分である

◆審査会コメント

地域課題、ミッションについては十分に共感でき、事業の必要性も十分に認められる。市と協働した2年間でも一定の成果が得られたことは評価できる。

しかし、提出資料、団体の発表、質疑の中でも、今後のビジョンがはっきりせず、今後どうしていきたいのかがわからなかった点は残念である。事業を継続し、支援の輪を広げていくには、他者からの共感、関係団体との連携が不可欠であるので、ビジョンを明確にして事業を実施してほしい。

併せて団体の運営基盤がまだまだ弱いので、団体運営の中核を担える人材を育成するなど運営基盤の強化についても期待したい。

長崎市提案型協働事業 平成 23 年度実施事業 評価結果及び審査会コメント

◆評価項目及び評価結果

団体名	(特非)新現役の会長崎センター	担当課名	市民協働推進室
事業名	団塊シニア世代セカンドデビュー応援事業		
評価項目		評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	A
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	A
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	B
総括		B	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている

B…優れている

C…どちらともいえない

D…どちらかといえば不十分である

E…不十分である

◆審査会コメント

重要な地域課題に対し、団体と行政が目的を共有して事業に取り組めたのではないかと思います。

協働事業1年目については、きちんと紙面を作成、配布し、ダンカーズクラブという団塊シニア世代の場づくりまで取り組まれており非常に評価できる。

今年は、協働事業の2年目で最後の年となる。事業継続について検討する際に、アンケートの内容が重要となってくると思われるので、回収方法を工夫するなどして回収率を上げ、団塊シニア世代の声を可視化するよう努力してほしい。

また、団塊シニア世代のステークホルダーを明らかにし、他の市民活動団体、企業などを巻き込むことで、さらなる事業効果が生まれるのではないかとと思われるので、検討していただきたい。今後の活動に期待する。